

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーたまブラザー教室		
○保護者評価実施期間	2025年7月25日 ～ 2025年7月16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2025年7月22日 ～ 2025年7月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年8月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援と小集団での支援をご家族のニーズやお子さまの状況に応じて提案し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。 ・担当職員を固定せず複数の職員で対応することで、多角的な支度でお子さまを捉え、幅広い支援を行っている。 ・集団では区分2・区分3の支援枠を設けている。 ・様々な経験を積めるようにイベントを充実させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の様子に応じた年間計画を作成し、保護者さまに共有している。進捗を職員間で共有するため、進行表を活用している。個別・集団ともに定期的にケース会議を実施し、様子の共有や支援方針の検討を行っている。 ・区分2・区分3の集団支援は、掃除や自由時間を取り入れ、流れを固定化することで、学校での集団生活を見据えた支援内容となっている。またお子さま一人ひとりに司会や配り係などの役割分担を持たせることで、小さな成功体験や達成感を感じやすい環境づくりを行っている。 ・小集団での課題を個別の支援内容に取り入れることで、効果的な療育を提供している。 ・外出や調理、異年齢参加など様々な内容のイベントを実施し、これまでよりも経験できる幅が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇やイベント等で、区分3(3時間超)の支援の機会を増やし、地域社会での生活に近い状況下でお子さまの成長を促していく。 ・保護者さまからのニーズが高いイベントや実施したことがないイベントを開催し、お子さまが様々な経験を通して成長できるよう支援していく。 ・職員同士での支援見学や検討会の頻度を増やし、支援の質の向上に努める。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や他事業所など、関係機関との情報共有を積極的に行っている。 ・他機関の情情報の提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに関係機関連携の希望アンケートを行っている。所属する集団生活での姿を訪問の上で観察し、合理的配慮や支援方針統一に繋げるための連携を定期的に実施している。 ・地域の機関や習い事を定期的に訪問し、関係性を築いている。情報収集した内容をもとに、パンフレットやイベントチラシ、他事業所の空き状況を教室に掲示している。保護者さまの要望に応じて、移行先として、他事業所や習い事等の情報を積極的に提供することで、移行支援に繋げている。 ・地域の習い事(スイミング・体操教室)と繋がりをもち、ハッピーのお子さまに体験していただく機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・併用事業所との事業所間連携を行い、関係機関で方針の統一を図る。 ・関係機関連携の必要性を、保護者さまや園にご理解いただくため、積極的に周知していく。必要があると思われる、連携希望がない方にも連携を提案する。 ・地域との繋がりを強化し、他事業所の利用児等との交流の機会を増やしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・個別での定期的な相談や、専門家・経験者の話を聞く機会を提供している。必要に応じてオンラインを活用している。 ・保護者会や親子参加日を定期開催し、保護者同士の交流の場を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者さま同士の交流や声掛けの仕方について学んでいただく機会として、イベント時には親子参加日を設けている。 ・お困りのご様子があれば職員からお声がけするなど、普段から相談しやすいような環境作りに配慮している。必要に応じて面談の機会を提供している。 ・アンガーマネジメント等、動画を活用した保護者会を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援のみを利用している方に向けた保護者会の開催を検討する。 ・来所が難しい保護者さまに対してオンラインでの面談が可能であることを周知し、迅速な対応に努める。 ・保護者会でどのようなテーマの話が聞きたいか、交流の頻度はどの程度あると良いか等、保護者さまから希望を募ることで、よりニーズに合った保護者支援を提供する。 ・保護者支援の専門性を深めるための職員研修を受講する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・支援スペースが狭い部屋があり、十分な運動ができないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設的环境要因による。 ・集中しやすい環境で個別支援を受けられる部屋数を確保するために、やむを得ないところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・狭い空間でもできる運動課題について検討する。 ・お子さまの特性や支援内容に応じた支援室を選定する。 ・運動課題では広い部屋を使用するなど、状況に応じて支援室を積極的に活用する。 ・大きく身体を動かす活動に取り組む際には、公園や体育館へ行く外出イベントを行う。定期的に貸し出しをしてくれる体育館や地域の方々などと関係性が構築できると良い。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の職員状況によって事務室に職員がいない時があり、玄関対応や相談対応が遅れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携や研修参加等により、職員の支援スキル控除や利用者さまの福祉向上に努めている。 ・夕方以降は人気の枠であるため、職員が支援優先で対応をしていることが多い。 ・事務室に職員が不在の際には、集団支援に入る職員が遠隔インターホンを持つようにしているが、対応が遅れる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室に残る職員を配置できるように調整に努める。 ・事務室に職員が不在になる時間帯を朝礼時に確認し、「職員不在のため出入可」の張り紙を忘れずに都度玄関に貼っておく。 ・夕方のコマを利用する方には、事前に職員が不在になる可能性を承諾をしていただき、相談がある場合は電話やフィードバックにて予約を取っていただくように伝える。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳をご利用の保護者さまとは、コミュニケーションの機会が少なくなってしまう。 ・保護者さま同士の交流の機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳対応によって、保護者さまの送迎負担を軽減することができる。 ・またお子さまの自立に向けて必要である。 ・アセスメント面談等、必ずご来所いただく機会以外での直接フィードバックや面談の設定が難しい。 ・特に高学年集団では連絡帳を介した対応が多いため、保護者会にご参加いただけることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話やオンラインを活用し、定期的に連絡帳以外でのフィードバックや家族支援の機会を設ける。 ・可能な限り月に1回以上はご来所いただくように、改めて周知する。 ・高学年向けのテーマなど、参加したいと思っていただける内容で保護者会を企画する。